JAPANESE DEAF NEWS

日本聴力障害新聞

昭和42年4月17日第3種郵便物認

2017年3月1日
第807号 月刊1日発行

発行人・石野富志三郎　編集人・小中栄一
購読料（年間、郵送料共、本体3,448円）3,900円　郵便振替口座 01060-5-28898
日聴紙のホームページ：http://jdn.jfd.or.jp/　メールアドレス：jdn@jfd.or.jp

発行所　一般財団法人 全日本ろうあ
編集部（〒602-0901）
京都市上京区室町通今出川下ル
繊維会館内
FAX 075-441-6147
TEL 075-441-6079

今月号の見どころ

「公共の通信網の平等な利用を」 7面
電話リレーサービスって何？
4人目の聴覚障害議員誕生 10面
埼玉県戸田市　佐藤太信さん
第65回全国ろうあ者大会in福岡の案内記事（締切：4月7日） 12面

「防災意識を高めよう」

東日本大震災から6年

この3月11日で東日本大震災が発生し
から6年が経ちます。昨年も各地で地震
発生したこともあって、各地で防災意識
高めた取り組みが広まっています。

宮城県で24人が防災に関する学習を深めました

初開催

宮城県

聴覚障害者災害対策宮城本部は、防災意識をさらに高めるため、1月28日、仙台市で初めての「防災勉強会」を開催。これは、中平幸一氏の遺贈で立ち上げた東日本大震災被災者支援事業の補助を受けて開催したもので、当日は被災ろう者をはじめとした24人が参加しました。

組織委員長がまず講演。小出委員長は一昨年の世界ろう者会議で東日本大震災の被災支援活動をテーマにした報告をし、海外のろう者の関心をさらに高めたこと等を語りました。また、自身の経験を踏まえ、県が手話言語条例を制定することで、行政がいっそう責任をもって取り組むことの可能性を示唆しました。

午後、2つに分かれたグループワークでは、困ったことや解決案等を話し合いました。その中で、日頃の備えの大切さ、心のケア面、マニュアル作成等の大切さを確認。同時に、ろう者と聞こえる人が手を携えて、一人ひとりが「自助・共助・公助」を活用できるような防災の取り組みを進めていくことを確認しました。

全市町村行政を訪問し、要請

福島県

聴覚障害者災害対策福島本部は、県内の全市町村行政面への理解を求めるため、昨年11月までに2年かけて59市町村を訪問しました。地域の防災計画を立てる際に、福島本部が作成した聴覚障害者防災マニュアルを参考にして、地域の協会会員と一緒に話し合いながら作成するよう要請しました。

聴障者対象の防災訓練実施

兵庫県明石市

1月17日で阪神淡路大震災から22年を迎えた兵庫県では、明石市が1月14日、昨年に引き続いて、聴覚障害者を対象にした2回目の防災訓練を実施しました。この日、聴覚障害者16人を含めた約50人が参加して集会所で会議中に地震が発生したことを想定しての屋外への避難等に取り組みました。

また、避難完了後は、家族等にメールを送信し、安全を報告する訓練も合わせて実施しました。

震災シンポで課題等を発言

熊本県

熊本障害フォーラム（KDF）は2月12日、震災に関する課題についてのシンポジウムを熊本市で開催。川北司さんが被災ろう者の立場で発言しました。

川北さんは、夜中に被災し倒壊した自宅からの脱出状況を報告。今後については役所に設けられた罹災証明申請等、倒壊に係る支援の相談窓口に、手話通訳者を配置することで、ろう者が自由に相談できるための配慮を要望しました。

聴覚障害者災害救援中央本部は2月10日、東京都で第13回拡大運営委員会を開催しました。詳細は本紙2面に掲載しています。

©2010 熊本県くまモン＃熊本支援

支援金の募集を終了

2月9日現在　359件　12,111,291円
（目標 2,000万円）

昨年4月14日、16日に熊本地方を中心とした震
7の地震が発生しました。その後、聴覚障害者災
救援中央本部は全日本ろうあ連盟本部事務所に「
覚障害者災害救援対策本部」を設置。被災した聴
障害者や手話関係者等への救助活動を目的とした
援金を募集しました。上記の通り、皆様から多く
ご厚意をいただきました。ありがとうございます
同本部は、本紙2面掲載の通り、この支援金の
集を2月で終了することを決めましたが、支援行
は続けますので、今後とも相変わらぬご協力の
ど、お願いいたします。

日本初 盲ろう者グループホーム 大阪市に開所

職員の24時間常駐のサポートも

この3月1日から大阪市で、全国初の盲ろう者（目と耳の両方に障害がある障害者）専用のグループホームが誕生します。運営主体は特定非営利活動法人視聴覚二重障害者福祉センターすまいる（以下、すまいる）。先立つ2月19日に完成を祝う会が行われ、全国各地の盲ろう者関係者で、この完成を祝いました。

すまいるは、盲ろう者の福祉就労や、いこいの場としての拠点を大阪市に構え、1999年より盲ろう者の社会参加の支援に取り組んでいます。前から利用者や家族から盲ろう者のケア付き住居の要望が出されており、協議を重ね、拠点から徒歩2分の場に盲ろう者に特化したグループホーム「すまいるレジデンス for the DeafBlind（愛称、ミッキーハウス）」を新築、開所することが実現しました。

ホームでは、盲ろう者個々の障害の特性に配慮した環境で、家事をはじめとした日常生活ができるよう盲ろう者についての知識をもつスタッフ10名が交代で24時間常駐、サポートをします。全10室の完全個室（7・58～8・05㎡）。朝昼晩の食事付（実費）、外出自由、ホーム内の車いすの移動が可能で各階毎に弱視者に対応した色分け等の工夫も凝らしています。現在、定員10人中、7人が入居を希望しています。三重県や鹿児島県から移住する方もおり、すまいるは盲ろう者の自立をめざした入居を全国に呼びかけています。

すまいるの連絡先：大阪市天王寺区小橋町2－12上本町NEXTAGE7F、（電話：06－6776－2000、FAX：06－6776－2012、Eメール：info@db-smile.ne.jp）

増幅器

3月。厳しい寒さが日に日に和らぎ、温かい春の季節に入る。年度末のため忙しい時であり、異動もある。変わり目であるので、聴覚障害のため、情報がきちんと入ってこない私たちにとっては不安も大きい時期である。しかし北国に暮らす人にとっては待ち遠しかった春の到来に心が弾む▼花粉症の季節でもある。花粉症の人たちの苦しさは大変である。ところで、花粉の出ないスギがあることを知っておられるだろうか。1992年、富山県の神社にあるスギの一本が全く花粉を発散させていないことが観測で分かった。タテヤマスギの突然変異体ということである。種子は正常に出る。富山県森林研究所はこのスギの種を品種改良し、「はるよこい」という新品種のスギとして実用化。11年から都市部の緑化用として年間約500～1000本を普及し始めている。偶然の発見らしい。花粉症に悩む人たちにとっては、まだ散々なるものかが、これから変なスギが普なるだろうと白いものであギにも意味が多様性と言社会において「ダイバーシ性」というってきているがいる職場でいを受け入れりが新しい創ることもあろ単なることでは の考えは大い欲しい。

日本聴力障害新聞 連載終了のお知らせ

次号より新連載スタート

本紙「日本聴力障害新聞」の今号で2つの連載が終了します。2015年11月号から始めた吉澤昌三さんによる日聴紙間の奥野英子先想「英子のつぶの半世紀を振り です。吉澤さん歌を楽しみに読者もいたとか です。ありがと した」とコメン きました。

引き続き、次の新連載が始ま 後も本紙をご愛 ろしくお願いい

みみちゃんの知っとこクイズ

本紙で「手話マーク」「筆談マーク」が設置され